

不撓不屈

ふとうぶくつ

開発過程に不可欠

試験片。工業材料の強度や寿命などを試験する小片で、新しい材料が生まれる開発過程で不可欠な存在だ。この試験片に親子孫三代にわたり、一貫してこだわってきた企業が東京・大田区にある。1950年(昭25)に創業した昭和製作所だ。

「産業の基盤の、そのまた基盤を支えるモノづくりの、最初の一滴」を担っている。現社長の舟久保利和はそう言いつつ胸を張る。メーカーや研

技術力苦境から救う

究機関からの依頼を受け、切り出して作る金属

材料試験片の製造を主力とする。破壊せずに金属

①

傷試験片については開発にも携わり、他の追隨を許さないほど多数の試験片を作る。

昭和製作所は舟久保利和の祖父である舟久保利作が、金属材料試験片製造専門工場として創業。

昭和製作所

最初は独立前に勤めていた日本特殊鋼の下請けのような位置付けだったが、膨大な知識と高い技術から生み出される試験片はほかの企業や研究機関からも好評を博し、引き合いが相次いだ。

東芝の標準材料に

しかし64年に、日本特殊鋼が事実上倒産。一気に仕事がなくなった。利和の父で当時大学生だった現会長の舟久保利明は「研究機関から来る細々とした仕事で窮乏をしの

いたようだ」と当時の様子語る。

だが、状況はすぐに好転する。電力会社が大容量発電所の建設を開始し、東芝から大量の仕事を受注するようになった。中でもタービンとを物語っている。

用羽根止めピン製作では高い技術力が評価され、製造方法が東芝の材料標準に正式採用された。これは50年後の現在でも継承されており、特殊部品でも高い技術力を持つこと



昭和製作所の試験片製品

利明が昭和製作所に入社したのき、知識と技術を身につけ、折しも東芝から大量発注を受け始めたころだ。

数字に結びつける

「父と二人三脚で半端じゃない量の仕事をこなした」と振り返る。入社3年で利作が病魔に倒れてからは、専務なで押し上げた。技術を高めるだけでなく、着実に数字に結びつけた。

試験片製造三代目に継承

(敬称略)

挑戦し続けている。

「製造から運搬までなものであった。30キロのものをついで電車で大坂まで納品に行ったこともある」という。休日返こそ社長をやらせてほしい」と言われて引き際だと思つた」と振り返る。

経営の第一線から離れた利明は現在、大田工業連合会会長と、その上部団体である東京工業団体連合会会長として精力的に活動している。活躍の舞台は会社の経営から工業団体の活動へ移ったが、モノづくり業界の地位向上を目指し、利明は

▽所在地 東京都大田区大森西2の17の8、03・3764・1621
 社長 舟久保利和氏 設立 52年(昭27) 8月
 資本金 2500万円
 売上高 非公開
 URL www.showa-ss.jp